

ぴぴっと

ぴぴっと(PPT)とは...Paper(新聞) Practice(実践) theory(理論) Philanthropy(社会貢献)

NO.11 春号

平成15年3月1日

発行

ぴぴっと(PPT)研究会



新聞を読んでみよう!

新聞記事を声を出して読み、新聞に使われている言葉や文章の成り立ちなどにも触れながら、その記事について自由に話し合いました。

(4~6年生はノーベル賞の小柴さんの記事 2~3年生はタマちゃんやフグ、小さな事件の記事)

作文ゲーム

文章の5W1Hをばらばらにして、それぞれの部分について自由に各自が紙に書き、それをランダムに組み合わせて文を作るゲームです。出来上がった文はぴったり当てはまるものから妙なもので、みんなでおおいに笑いました。



最後に「子どもぴぴっとクラブ」の閉講式を行い、子どもたちに「チャレンジ賞」を贈りました。



2月1日(土)

於 生涯学習センター

「遊・YOU学園」

参加人数 小学生14名

第5回

子どもぴぴっとクラブ

小学生の子どもたちを対象に、遊びを通して新聞に親しみ、自然に表現力や国語力を身につけてもらおうという趣旨で、ぴぴっと研究会が主催している会です。



「この写真おもしろいね」...親子でスクラップづくり

2月22日(土) 雫石町立雫石児童館・雫石公民館主催 「あそびの学校」で、「子どもぴぴっとクラブ」の出前講座を開きました。新聞を読んだり、スクラップをつかったり、新聞パズルで遊んだり等、楽しい時間を過ごしました。

昨年6月から開講した「子どもぴぴっとクラブ」は、去る2月1日(土)の第5回をもって、今年度の活動を無事に終えることができました。

「子どもぴぴっとクラブ」は、子どもたちの知的好奇心を刺激するような楽しい内容で、来年度も開講する予定です。どうぞお楽しみに。

子どもの心を耕す読書のすすめ

この時期は、これまで以上に読書に対する個人差が見られるようになります。そして、周囲の人々 特に親や友達、教師の影響が大きくなりますので、読書についての話し合いや助言を大切にしたいものです。読書嫌いの子が見受けられます。興味・関心に合った本をすすめて一緒に読んで話し合ってみましょう。

1. 幅広い興味を満足させられる本

行動半径が広がるとともに時間的、空間的視野も広がり子どもたちは、遠い外国の話や古い時代の物語、科学もの、ノンフィクションなどにも幅広い興味を示すようになります。

なるべくさまざまな分野の本に出会えるようにすることが大切ですので、好きで読んでいる本を否定しないようにしましょう。

<多面的な内容のもの>

「せいめいのれきし」「 の日記」「 動物記」「ガラスのうさぎ」・・・

<人間を浮き彫りにした伝記>

画一的な偉人伝なく、人間をうきぼりにした本格的なもの

2. さまざまな分野の本に出会えるように

物語では、ストーリーのおもしろさだけでなく、考えを深めさせる本を読む力が育ってきています。

また、探偵小説等にも興味を示す子どもも多くなるのもこの時期です。

<考えを深めさせる物語>

「次郎物語」「モモ」「青い目のネコと魔女」・・・

<物事を追跡していく探偵物語>

「怪盗紳士ルパン」等、ルパンものやホームズもの、江戸川乱歩ものなど

読書が好きになる本の選び方
4
中学年から高学年へ

味 あらかると

文部科学省は二〇〇三年二月四日、二〇〇二年度版文部科学白書を発表した。

白書は小・中学校の全国学力調査結果を取り上げ、文部科学省としての評価を明らかにした。それによると、総括としては「おおむね良好」。問題点としては

学習内容を十分に理解していない子供が少なくない。

平均的な学力水準は高いものの、高レベルの学力を持つ子供の割合が少ない。

勉強は大切と認識しているが、必ずしも好きとは思っていない。

学ぶ習慣が必ずしも身につけていない。自然体験、社会体験など、子供の学びを支える体験が不足している など。

文部科学省では三月中にも教科ごとの詳しい分析結果を発表し、また、すべてのデータを公開するという。

「初等中等教育改革」就中（なかんずく）学力問題は単に教育現場だけでなく家庭でも地域でも徹底した論議が繰り広げられることを期待したい。

冬の自然観察会を通して 思いを深くした子どもたち

沢内村せんだん保育所 佐藤 りき子

「冬の自然観察会」というと園児にとっては少し難しいのではないかと思われるが、幼児だからこそ感動できることがたくさんあった。

まず、雪の断面を見ながら、雪質（ざらめ雪・しまり雪・他）や、その降った回数を調べた。また、講師の瀬川 強先生が雪を掘る間、子どもたちは「おふるだ」「落とし穴だ」などと楽しんでた。

いよいよ木の葉が見えたり木の枝が見えると、自然に「春が来た」の歌が始まり、一人が歌うとみんなの歌となった。

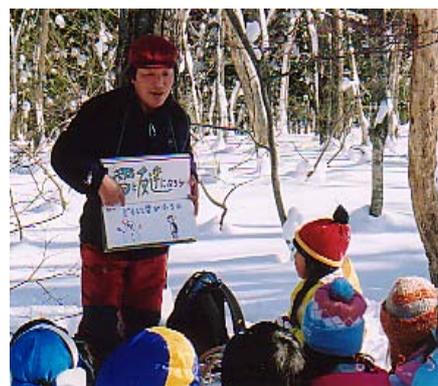
「雪がとけたら何になる？」の質問にも、みんな口々に「春！」「春！」と答える。「水」などと答えるのは、雪のあまり降らない地方だけかもしれない。大人が春を待っている心境は、子どもたちにも通じているのか、子どもたちは、雪遊びを楽しみながらも春を待っているようだ。

さらに、歩を進めていくと雪原にウサギの足あとを発見した。独特な足あとに進行方向・前足・後足などの説明や、ウサギがウンチのために立ち止まった場所など楽しい学習となった。また、キツネの足あとも見つかかり、「ウサギとキツネの運動会だ！」とかわいい表現をする子どもたちだったが、ウサギとキツネの関係を知ると、「ウサギはキツネに追いかけられたんだ！」など、昨晚の動物たちの営みに思いをめぐらしていた。

一週間後、絵本づくりをしたら動物のことが描いてあり、今回の観察会の体験がベースになっているのではないかと感じられた。おりしも、沢内出身の高橋喜平さんが書かれた「のうさぎ」の本が40周年記念としてハードカバーで出版されたのを機に、当保育所へ寄贈された。のうさぎが敵から逃れるための苦労や、また、のうさぎの友だち同志が月夜の晩に仲良くなったりすることやのうさぎの赤ちゃんがキツネやテンなど危険と向き合いながらも立ち立つ事が描かれており、今回の観察会で体験そのものをふくらませる結果となりありがたかった。

夏の里ウサギの飼育、濱 智子先生のウサギの紙芝居など、子どもたちにはなんと心を深く耕す体験となったことか。かかわったみなさんに感謝したいと思っています。

里ウサギの飼育で始まって、野ウサギで終わった1年であったとも言えるようです。



説明に聞き入る子どもたち

さんやそう 4 ～サンカヨウ～

奥羽山系の5月末、ゼンマイやシドケが終わりを迎える頃になると決まって出会えるのがこの花である。

ブナは既に葉が開き、所々陽がさしこむサワ筋の斜面に30～50cm位の茎を立て、フキの葉のような大きな葉を2枚つけている。その上に葉のおおきさと対照的に梅のような真っ白い花を3～10ほどスプレー状につける。

近頃店頭をにぎわしている華やかな山野草とは違ってきわめて清楚な花ではあるが、シラネアオイとともに山野草の人気を2分するポピュラーな花。ただ花期が3～5日と短いのが残念でならない。夏の登山帰りの途中、ブルーベリーのような黒い実をつけたサンカヨウが見られる・口に含むとほんのり甘く、つかの間ではあるが乾いたのどを潤してくれるのがうれしい。

(文 写真 沢内村 大石信夫氏)



サンカヨウ

情報教育

イコール

コンピューター教育

～東京・練馬の小学校

1月30日(木) ぴびっとのメンバー6名は、東京都練馬区立大泉第二小学校の学校公開に参加しました。この学校は新聞教育の先進校で、これまですばらしい実践を重ねています。暗中模索の私たちぴびっと研究会にとって、何かをつかめる絶好の機会と思い、早春の東京に「お上りさん」してきました。「子どもぴびっとクラブ」にいかせそうなものをたくさん見つけてきました。

～ 研究主題 ～

進んで情報を創造し発信できる子の育成

とかく情報教育というと、イコールコンピューター教育と思われがちですが、研究紀要の校長のあいさつ、『コンピューター教育だけでない情報教育を！』と題した文のなかに、研究の基本的な姿勢が端的に表れた一説が載っていたので紹介します。

「インターネットのメールを活用する際のルールやマナーを身につけさせることは、情報教育の一環として大変重要だと思いますが、その基礎基本となる内容は全て通常の「手紙」を書く上での心構えや留意点に含まれているのではないかと思います。」



ことわざさがしをする子どもたち(2年生)

公開授業の内容

主に音声を使った発信活動

- 1年 「わたしのたからもの」
- 2年 「ことばあそび」

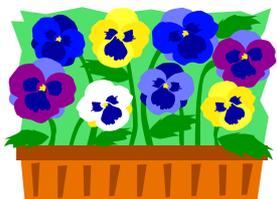
主に文字を使った発信活動

- 3年 「カルタをつくろう」
- 4年 「新聞をつくろう」

情報機器を活用した発信活動

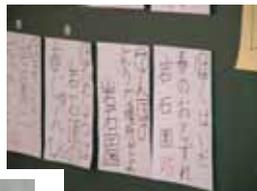
- 5年 「大泉第二小を紹介しよう」
- 6年 「わたしたちの6年間
～パソコンで思い出
アルバムを作ろう～」

ひとりごと
前の晩から降り出した雪をかきわけきわけ新幹線に乗った私たち。なのに東京はパンジーが咲き、おひさまポカポカ。これが冬ですか。これで寒いのですか。冗談じゃないわよ！

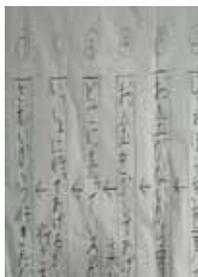


ではな！

をたずねて～



俳句作り (3年生)



きりなし文 (2年生)



ことばあそび (2年生)



参観した中で特に印象に残ったものは、「ことばあそび」(2年生)の中の『きりなし文』でした。

『きりなし文』の例 -

消しゴムを買ってきてください。

- お金がないので買えません。
- お金をあげるので買ってきてください。
- お店が分からないので行けません。
- お店を教えるから買ってきてください。
- 寒いので行きたくありません。
- オーバーをかすから行って来てください。

こんな風に、2人組で文を次々に続けていきます。



紀要「研究の成果」より

情報発信で一番大切なことは「感動」との出会いである。そして、そこから生まれる何かを伝えたい(発信)という強い思いが「発信の原動力」であり、出発点となる。

平成 15 年度

びびっと研究会

年間活動計画

- 4 月 子どもびびっとクラブ会員募集
まうすりい(25)・読み聞かせ
- 5 月 第1回子どもびびっとクラブ
まうすりい(26)・読み聞かせ
- 6 月 会報「びびっと」夏号発行
第1回新聞作り講習会
まうすりい(27)・読み聞かせ
- 7 月 第2回子どもびびっとクラブ
第3回子どもびびっとクラブ
まうすりい(28)・読み聞かせ
- 8 月 まうすりい(29)
- 9 月 会報「びびっと」秋号発行
第4回子どもびびっとクラブ
まうすりい(30)・読み聞かせ
- 10月 第2回新聞作り講習会
まうすりい(31)・読み聞かせ
- 11月 第5回子どもびびっとクラブ
まうすりい(32)・読み聞かせ
- 12月 会報「びびっと」冬号発行
まうすりい(33)・読み聞かせ
- 1 月 第6回子どもびびっとクラブ
まうすりい(34)・読み聞かせ
- 2 月 まうすりい(35)・読み聞かせ
- 3 月 会報「びびっと」春号発行
まうすりい(36)・読み聞かせ

その他に

- ・ 「子どもびびっとクラブ」の
マニュアル本作成・・・年間
- ・ びびっと相談室……………随時

Q: 新年度広報委員に内定してしまいました。何から勉強したらよいか教えてください。

9

(北上市 小学校PTA会員)

平成 14 年度を振り返って、北上市内小中学校の新聞教育関係でいくつかの嬉しいニュースがありました。岩手県小中学校新聞コンクール PTA 新聞の部で笠松小の PTA 会報が最優秀賞に輝いたこと。第 52 回全国小・中学校・PTA 新聞コンクール PTA 新聞の部で口内小学校の PTA 新聞「あこや」が奨励賞に輝いたこと。上野中学校が NIE 実践校に指定され、岩手県小中学校新聞コンクール新聞スクラップノートの部と個人新聞の部でそれぞれ最優秀賞に輝いたこと。そして、ぴびっと研究会主催の PTA 新聞づくり講習会が北上市生涯学習センターで 4 回にわたって実施できたこと。等々です。平成 15 年度もまた新しい夢を求めて活動してほしいものです。

- 1 PTA の目的を勉強すること。
- 2 PTA の活動内容をくわしく知ること。
- 3 PTA の予算や経費のことも勉強をすること。
- 4 そして PTA 会報発行の目的を強く意識すること。

- (1) みんなの生活を高め、明るく楽しい PTA をつくること。 (活動性)
- (2) PTA の活動を正しい方向に向ける 高める。 (指導性)
- (3) PTA や学校の出来事を知らせ望ましい人間関係をつくる。 (報道性)
- (4) PTA や学校の生活、活動を記録する。 (記録性)

トゲがささったら五円玉で抜く...

トゲは小さいものほどやっかいです。なかなか抜けないし、だからといって放っておくと、気になってしかたがないでしょう。そんな場合五円玉を一つ用意してください。トゲがささった部分が真中の穴から出るようにして五円玉を押しつけるようにあてると、その部分の皮膚が盛り上がり、トゲの頭が首を出します。そこを毛抜きで、抜いてください。



ちょっと
ひと休み
知っています?
こんなこと

まうすりい 初体験記

まうすりいだより ③
参加者の寄稿コーナーです!

新しい楽しみ

武石 恵美子 さん

「緊張したー。でも、楽しかった。」初めて参加をした後の、単純だが素直な感想である。何度か誘われていた私が、ようやく重い腰をあげたのは1月の「まうすりい」からである。『新聞を読んで今を語る会』『何と難しいことをやっているのだろう、どんな人がどんな話しをしているのだろう、高尚な内容だったらついていけるのだろうか。』等、いろいろ考えるとなかなか思い切れずにいたからだ。

ところが、内心ドキドキしながらの参加となった私のそれは、良い意味で裏切られた。教育問題の記事や連載の読み物について等々、さまざまな新聞にまつわる自分の感想が気楽に話し合われ、楽しく聞くことができた。また新年最初の会ということで、昨年一年間のニュースを振り返る方もおり、忘れていた事柄を改めて再確認することができた。

ところが、自分の発表となると話は別である。今にも口から心臓が飛び出しそうなバクバク感のなか、気になったニュースについて話をした。子どもが二人いることもあり、目に付くのは子どもや学校・教育の記事が中心となる。今回その中のひとつの記事について話したのだが、前記のような状態のため何を話したのかよく覚えていない。ただ、話し終わった後、額から噴出した汗は、人前で話をする緊張感と共に久々の感覚であった。

今まで、自分の興味のある記事以外は表面的な読み方となっていたが、いろんな方の意見を聞く機会に恵まれ、少しずつ視野が広がっていけたら嬉しく思う。次回は、参加されている方々のようにスクラップとまではいなくても、せめて自分が話す記事だけは準備しておこう。毎月第2火曜日が、新たな私の楽しみとなった。

新聞を読んで今を語る会（通称：まうすりい）は、複数の新聞を読み比べ、社会情勢から身近な出来事まで、いろいろな事柄について楽しくディスカッションしながら、お互い刺激しあって自分を高めていくことを願いスタートした会である。

ぴぴっと研究会では、平成13年4月より「まうすりい」を開始。平成15年2月現在23回を数える。

毎月第2火曜日、10時から12時まで北上市黒沢尻北公民館を会場に開催中。

参加希望者はどなたでも大歓迎！！

暖かい日ざしの中で

先日思いがけなく東京デイズニ
ーランドへ行ってきました。
それまでの私は「デイズニ
ーランドは子どもや若者が行っ
て楽しむ」と考えていました。

でも、内心は「一度は行って
みたい」と言っているのが私の本音。

デイズニールランド行きが決ま
ったときは、うれしくてまるで遠足
を楽しみに待つ小学生のよう
でした。

当日、東京は大変お天気がよく、
デイズニールランドへの期待も膨ら
みました。しかし行ってみると、
北国育ちの私でも身震いするほど
の天気と強風…。予定されていた
パレードや一部のショーも中止に
なっていました。

「せっかくなのに…」と少々
残念に思いながらランド内を一巡
できる馬車風のバスに乗り込みま
した。
バスでまわっていると、そのス
ケールの大きさとおとぎの国のよ
うな外見の素晴らしさに圧倒され
ました。

デイズニールランドは子どもや若
者が楽しむ所」というこれまでの

私の偏見はどこへやら。「あそこも
見たい」「こちらも体験してみたい」
と年齢を忘れてはしゃぐ自分
を少々恥ずかしく思うほどで
した。
デイズニールランドはおとぎの世
界。来園するゲストに夢の世界に
浸ってほしいからと、電線や電車
といった現実世界がランド内の
どこからも見えないように配慮さ
れているそうです。ランド内で働
く人たちは全員、デイズニール
ランドという舞台でそれぞれの役を演
じるキャスト。行き届いた清掃に

も、明るい笑顔にも、人々に夢を
与えたいというデイズニールの思い
を支える誇りが見えます。

この素晴らしい世界は、「ここに
いる間は現実世界を忘れて夢の世
界を楽しんでもらう」というデ
イズニール哲学に基づいたこまやかな
配慮と、それを支え実現させてい
るキャスト。従業員さんたちの熱
心な仕事ぶりの賜であると実感し
ました。

華やかなショーや数多くのテ
ーマ館での体験。イルミネーション
で装飾された駅舎とファンタジッ
クな電車は、私の老化しはじめた
心に魔法をかけてくれました。そ

れは、庭の片隅で暖かな日ざしを
浴びながら、命の喜びを精一杯表
現している福寿草に感じるよう
な、優しい癒しの魔法でした。

一歳六ヶ月になる孫のために、
迷いながら買い求めたおもちゃ。

それで楽しそうに遊んでくれた孫
の笑顔を思い浮かべながら、

「孫たちと一緒にもう一度行こ
う。」

暖かい春の日ざしの中でつがや
いている今日この頃です。(丁)



新聞まめちしぎ

その11

全国の新聞の種類は

新聞協会には、2001年4月1日現在で112の新聞(社)が加盟している。これらは毎日発行される「日刊紙」である。この日刊新聞は、全国規模で発行しているもの・複数の県にまたがって発行しているもの・主に県単位で発行しているもの・スポーツ情報を伝えるものなどがある。その他、一定の地域を単位に発行している新聞や、隔日刊・週刊・月刊で発行している新聞、専門新聞、広告収入で運営しているフリーペーパーなど、多数の「新聞」が活動している。

編集後記

今回のぴびっとはいかがでしたか？

2月末、「虹のひろば」のせんだん保育所を訪ねました。沢内は雪がたくさん残っており、春はまだ遠い様子。元気な子どもたち・昼寝の布団・肥料袋のそり・ストーブのそばに置かれた長ぐつ…。幼い日を思い出しました。せんだん保育所の皆さん、かわいい沢内甚句とても良かったです。ありがとうございました。



ご意見ご感想をお待ちしております。

ぴびっと研究会

024-0012 北上市常盤台 1-14-12

TEL-Fax 0197-64-0758

E-mail :agi@titan.ocn.ne.jp